

平成25年度

# 女川町まちづくりワーキンググループ

## 第6回 定例会だより

### 第6回まちづくりワーキンググループが行われました！

平成 26 年 1 月 9 日に、第 6 回女川町まちづくりワーキンググループが開催されました。

前回の振り返りと、各検討チームの進捗報告を行い、その後、女川町のシティプロモーションを行うための、町内の資源とその認知度（ポジショニング）について話し合いました。



### 第 6 回全体定例会開催概要

開催日時：平成 26 年 1 月 9 日（木）18:30～20:30

開催場所：女川町役場仮設庁舎 2階第2会議室

参加者数：18 名

【内容】

(1) 前回の振り返り

(2) 各検討チームからの報告

(3) グループワーク

### 各検討チームからの報告

#### 《公共施設検討チーム》

第3回検討チームを開催し、グループワークでは、中心市街地での公共施設のあり方・機能について、町民向け、観光客向けなどのカテゴリー毎に検討しました。町民向けには、軽運動室、子どもの遊び場などの活動の場、観光客向けには、各種情報コーナー、震災記録展示室などの発信の場に関する意見があげられました。また、魅力的な施設とするための工夫として、多目的な利用が可能なスペースを設けること、商店街等の周辺機能と連携するしくみづくり、差別化を図ることなどもアイデアとして出されました。

#### 《教育環境検討チーム》

第2回検討チームを開催し、第1回検討チームで出された教育環境の課題について、対応の緊急性と、対応の担い手（公共 or 家庭や地域）の視点で、分類を行いました。「公共が担い緊急性が高いもの」として、子どもの遊び場不足や部活動の環境が不十分な点があげられ、「公共が担い緊急性が高くないもの」では、0歳児の保育環境の未整備や障害児教育の問題があげられました。

また、「地域が担い緊急性が高いもの」として、体力づくりやスポーツをする環境、子ども会等の地域活動が停滞していることなどがあげられ、「地域が担い緊急性が高くないもの」としては、教育格差（学力等）の問題があげられました。これらのうち、教育環境検討チームでは、「地域で担うこと」に重点を置き、検討を進めていきます。

#### 《観光交流エリア検討チーム》

第 4 回検討チームを開催し、デザイン会議シンボル空間部会との合同会議として、新女川駅～プロムナード～観光交流エリアの一体的な計画について意見交換を行ないました。駅前広場や海岸公園の利用の仕方では、「プロムナードに人が流れるしかけが必要」「運動公園との役割分担が必要」「夜景はムーティな感じが良い」などの意見が出されました。

## グループワークまとめ（町内の資源とその認知度（ポジショニング））

今回のグループワークでは、女川町を対外的にPRしていくためのシティプロモーションについて検討しました。まずは、プロモーションの基礎となる地域の資源とその認知度を整理しました。また、各資源について、ライバルとなると思われる地域も検討しました。

今後は、今回の成果をもとに、認知度が不十分なものは高める工夫を、ライバルの地域とどのように差別化を図るか検討していきます。

各グループの成果のうち、参加者の関心が高かった内容は下記の通りです。



Aグループ	Bグループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワースポット（ストーンサークルの新しい伝説をつくる、三十三カ所巡りなど）を活かす</li> <li>・アートをテーマにした定住促進策（アートコンテスト、参加型の祭、アート体験、アーティストが育ちやすい環境づくりなど）</li> <li>・知られていない海産物（ムール貝、赤皿、ホタテのまびきなど）の加工品開発、お洒落でかわいいデザイン、レシピと一緒に販売するなど</li> <li>・女川魚市場の中に食事ができる場所をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新鮮な海産物が強み</li> <li>・しらすは、静岡などのものと魚種が異なり、獲れる時期も違うため、これを活かしたPRをする</li> <li>・女川はワカメ養殖発祥の地、ホタテ養殖の南限地でもあり、その特徴を発信して差別化を図っていく</li> <li>・地元しか知らない海鮮料理があり、女川魚市場を活用し、観光客に提供する仕組みが必要</li> <li>・漁業振興により、雇用創出、企業誘致、定住、子育て支援などに繋がる</li> </ul>
Cグループ	Dグループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリー向けの観光資源として、海釣り、クジラウォッチング（クジラが見える時がある）、グラウンドゴルフなどを実施していく</li> <li>・スペインタイルをはじめ、織物、そり、焼き物など手づくりのものが多いため、「手づくり村」などを整備して人を集める</li> <li>・カキ小屋をプロムナードに整備してはどうか</li> <li>・観光客は、プロムナードに集客して、そこから町内各地に分散させると良いのでは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併していない（独立しており、行政と町民が近いことが女川の強み）</li> <li>・駅を拠点とし、コンパクトに海や山が集積している。（漁業体験やダイビング、トレッキングなど）</li> <li>・震災を経験しても女川に住む人の生きざまをPR</li> <li>・農業がないが、それを逆手に取り、農業の町と連携した商品づくり</li> <li>・銀鮭、ほたて、かき、ほや、わかめなどの海産物があり、6次産業化を目指す</li> </ul>

## 今後の開催予定


### ●第6回全体定例会

日時：平成26年2月4日（火）18時30分～20時30分

場所：女川町役場仮設庁舎2階第2会議室

内容：各検討チームでのワーキンググループの内容を報告します。

女川町の営業ツールとなるテーマ別のキャッチコピーを考えます。

 ワーキンググループに参加したい方（町外からのオブザーバー参加含む）、復興まちづくりに対するご意見のある方は、下記までお問い合わせください。

女川町役場 復興推進課 復興調整係 TEL 0225-54-3131（内線239）